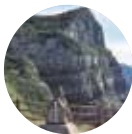


さつま ぜんだい
薩摩川内市 (鹿児島県)

甑島は薩摩半島から西へ30kmにあり、東シナ海の美しい海に浮かぶ小さな島です。上甑島には、長さ4kmの砂州からなる、国の天然記念物に指定されている長目の浜があります。下甑島には、約8000万年前の地層から恐竜の化石が発見されています。また、200m級の断崖絶壁や、ナポレオン岩やロッキンク岩といったユニークな名前の付いた巨岩など、迫力ある雄大な自然を堪能できます。

甑島の観光情報は…
http://satsumasendai.gr.jp/koshiki-sight-seeing

わじま
輪島市 (石川県)

能登半島の北西にある輪島市は、豊かな緑と海に囲まれた人口約3万人の町です。中世に曹洞宗の本山「總持寺」が開かれ、北前船の世紀には「親の湊」と呼ばれ海上交通の要衝として栄えるとともに、江戸中期以降は漆器業（輪島塗）が盛んになりました。現在、「漆の里」「裡の里」「平家の里」の3つの里構想を前面に町の魅力を発信しています。

観光情報は…
能登輪島観光情報ポータルサイト 「輪島たび結び」
https://wajimanavi.jp

みや こじま
宮古島市 (沖縄県)

宮古島は珊瑚礁が隆起してきた島で、大小6つの島々で構成されています。平坦な地形で川もなく赤土の流出もないことから海が驚くほど青く美しいです。また宮古島特有の地形を利用した地下ダム施設が建設されており、農業も大きく発展しています。平成27年には宮古島本島と伊良部島を結ぶ橋で、無料で渡れる橋の国内、日本で一番長い「伊良部大橋」が開通を迎え、数多くの観光客が訪れています。また17世紀からは薩摩や琉球王府の厳しい支配を受けていた歴史があり、その中で築かれてきた文化は沖縄本島とも異なり、宮古島独特の歴史・文化を形成しております。

観光情報は…
宮古島市neo歴史・文化ロード
宮古島市教育委員会公認アプリ 「綾道～あやつ～」
※沖縄振興特別推進市町村交付金を活用して作成しております。

とめ
登米市 (宮城県)

米の主産地として有名で、肉用牛は東北随一の生産量を誇り、上質なものは「仙台牛」として出荷されています。豊かな自然が広がり、多数の白鳥・ガン等が飛来する「伊豆沼・内沼」、国指定天然記念物「東和町ゲンジボタル生息地」などがあります。「米」の水かぶり」をはじめ、「登米能」、「法印神楽」、「南部神楽」など多種多様な民俗文化財が継承され、「みやぎの明治村」として知られる登米市登米町では、国指定重要文化財「旧登米高等尋常小学校校舎」など歴史的建造物が公開されています。

観光情報は…
登米市ホームページ
https://www.city.tome.miyagi.jp/tourism/
一般社団法人登米市観光物産協会ホームページ
https://www.tome-city.com/

おおふなと
大船渡市 (岩手県)

三陸海岸に位置する大船渡市は水産の街として名高く、縄文時代の貝塚からも、海の恵みに支えられた暮らしが偲ばれます。また、リアス海岸特有の変化に富んだ景観が魅力で、碓石海岸や夏虫山では雄大な眺めが楽しめます。寒冷な岩手県にありながらも、気候は年間を通じて穏やかで、ヤブツバキや気仙茶など、温帯性の植物も育成しています。

観光情報は…
一般社団法人
大船渡市観光物産協会ホームページ
http://sanriku-ofunato.or.jp/

としま
十島村 (鹿児島県)

十島村は、南北約160kmという南北に長い村です。7つの有人島は、火山の島、珊瑚礁の島、温泉の島とそれぞれに特色を持つ無垢の自然と、大和・琉球の文化の影響を受けた特有の文化を有し、人情豊かな人の輪が脈々と息づいています。

観光情報は…
十島村公式サイト
http://www.tokara.jp/

人と自然が息づく、
神秘的島々へトカラ
吐噶喇列島おが
男鹿市 (秋田県)

秋田県の中央に突き出す男鹿半島は市の大半が国定公園に指定され、勇壮な岩石が連なる海岸線、入道崎や寒風山などの自然や戦国時代の城館である史跡脇本城跡、赤神神社五社堂など見どころいっぱい。この自然と歴史の魅力あふれる大地は「男鹿半島・大潟ジオパーク」として日本ジオパークに認定されています。

観光情報は…
男鹿市公認サイト
http://www.oganavi.com

男鹿市の
情報はこちらの
能登町 (石川県)

能登半島の北東部に位置し、東と南は富山湾に面して海岸線が続き、海岸線の大半は能登半島国定公園に含まれています。海岸部では古くから漁業が行われ、中世に大規模な公田を含む広大な荘園が開発されました。戦国時代には、松波畠山氏が松波に居城し、藩政期には、一部を除き前田家の所領に組み込まれ、その後宇出津港や小木港は、漁業・商業で栄えてきました。また、国指定史跡真脇遺跡を始め、多くの遺跡や文化財が残っています。

観光情報は…
能登町ホームページ
http://www.town.noto.lg.jp

ゆざ
遊佐町 (山形県)

山形県庄内平野の最北部に位置し、恵み多い鳥海山と日本海に抱かれ、四季をととして豊富で新鮮な食材と自然豊かな風景を楽しむことができます。遊佐町を含む鳥海山麓4自治体は、日本海と大地がつくる水と命の循環を体感することができる「鳥海山・飛鳥ジオパーク」として、日本ジオパークに認定されています。

観光情報は…
遊佐町ホームページ
http://www.town.yuza.yamagata.jp/
遊佐鳥海観光協会ホームページ
http://www.yuzachokai.jp/

さが
佐賀市 (佐賀県)

佐賀市は、九州西北部に位置し、北部には脊振山系の山林・清流・温泉、南部域には豊饒の海といわれる有明海があるなど、自然豊かな環境にあります。市内には、縄文時代早期の遺跡で、国内最古の湿地性貝塚がある「東名遺跡」、古代肥前国の役所跡「肥前国庁跡」や近世城郭の「佐賀城跡」、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の構成資産の一つである「三重津海軍所跡」など多くの歴史遺産に溢れています。また、秋にはバルーンフェスタが開催され、多くの観光客で賑わっています。

観光情報は…
佐賀市ホームページ
https://www.city.saga.lg.jp/

みしま
三島村 (鹿児島県)

三島村は、鹿児島県本土の南に浮かぶ3つの島「竹島」「硫黄島」「黒島」から成る人口400人足らずの小さな村です。日本一小さなジオパーク、県立自然公園にも指定されているこの村は、地形・地質、火山、動植物、歴史・文化など貴重なものが多く、大自然や数多くの伝説とロマンに彩られています。その昔、大名しか口にできないほど貴重だった「大名竹の子」、全国の秘湯ファンの人気を集める露天風呂「東温泉」、戦時中島民と元特攻隊員の悲しく切ない感動秘話など、それぞれの島が全く違う表情を見せて魅了してくれます。

観光情報は…
三島村ホームページ
http://mishimamura.com/



製作：来訪神行事保存・振興全国協議会 (平成30年)
印刷：秋田県男鹿市観光文化スポーツ部 文化スポーツ課
電話：0185-24-9103
FAX：0185-24-9200
E-mail：bunka@city.oga.akita.jp

来訪神
仮面・仮装の神々

エネスコ無形文化遺産



らいほうしん

来訪神 行事とは…

来訪神行事は、面や被り物、泥などをまとったものが「来訪神」となって、正月などの年の節目となる日に家々を訪れます。新しい年を迎えるにあたって怠け者を戒めたり、家や人々に幸せや福をもたらしたりする行事です。地域の中で世代から世代へと受け継がれています。

全国10件の重要無形民俗文化財に指定されている来訪神行事とその自治体は来訪神行事保存・振興全国協議会を結成し、交流を深めています。

ユネスコ無形文化遺産に

登録された全国の来訪神行事



おが
男鹿のナマハゲ
(秋田県男鹿市)
開催日 12月31日



ゆさ
遊佐の小正月行事
(アマハゲ)
(山形県遊佐町)

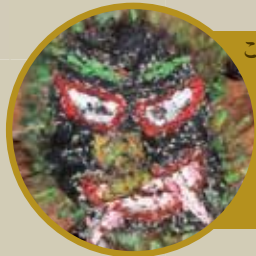
開催日 1月3日(女鹿)
1月1日(滝ノ浦)・1月6日(鳥崎)

よしはま

吉浜のスネカ
(岩手県大船渡市)
開催日 1月15日



みしま
見島のカセドリ
(佐賀県佐賀市)
開催日 毎年2月第2土曜日



こしきじま
甑島のトシドン
(鹿児島県薩摩川内市)
開催日 12月31日

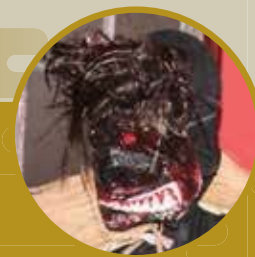


あくせきじま
悪石島のボゼ
(鹿児島県十島村)
開催日 旧暦 7月16日

よねかわ
米川の水かぶり
(宮城県登米市)
開催日 2月初午の日



のと
能登のアメメハギ
(石川県輪島市・能登町)
開催日
1月2日(輪島市門前町皆月・五十洲:アメメハギ)
1月14日・20日(輪島市輪島崎町・河井町:面様年頭)
2月3日(能登町秋吉:アメメハギ)



さつ ま い おうじま
薩摩硫黄島のメndon
(鹿児島県三島村)
開催日 旧暦 8月1日・2日



みや こ じま
宮古島のパーントゥ
(沖縄県宮古島市)
開催日
旧暦9月上旬(島尻)・
旧暦12月最後の丑の日(野原)



ユネスコ無形文化遺産

らいほうしん

「来訪神:仮面・仮装の神々」

2018年にポートルイス(モーリシャス)にて開催された第13回無形文化遺産保護条約政府間委員会において、無形文化遺産の保護に関する条約に基づく代表一覧表への登録が決定されました。

2009年に登録された「甑島のトシドン」に9行事を追加して拡張登録したものです。

この条約は、2003年のユネスコ総会で採択され、2006年に発効し、人から人へと継承される芸能や祭礼、社会的慣習、伝統工芸技術などの無形文化遺産の重要性とその保護、相互評価の重要性に関する意識の向上等を目的としています。条約では、「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表(代表一覧表)」や「緊急に保護する必要がある無形文化遺産の一覧表」の作成等を定めており、日本は歌舞伎(2008年)や「山・鉾・屋台行事」(2016年)等が「代表一覧表」に登録されています。

※ユネスコ…国連教育科学文化機関

ユネスコ無形文化遺産

来訪神：仮面・仮装の神々 (重要無形民俗文化財 指定順)

重要無形民俗文化財 【昭和52(1977)年5月17日 指定】



鹿児島県薩摩川内市
開催日 毎年12月31日



鹿児島県薩摩川内市は本土区域(川内・樋脇・東郷・入来・祁答院)とその西側の東シナ海上に広がる甕島区域(里・上甕・鹿島・下甕)からなっています。『甕島のトシドン』は甕島の下甕に伝わる伝統行事です。

トシドンは「年神様」の化身と言われており、天上界から子どもたちのことを見守っています。毎年12月31日(大晦日)の夜にトシドンは「首切れ馬」に乗って、従者をしたがえて子どもたちのいる家々を訪れます。

「おるか おるか ここに来て障子を開けえ」と大きな声で子どもたちを呼び、その年の子どもたちの素行や行儀に対し、良いところは褒め、悪いことは戒めます。また、歌を歌わせたり、踊りを披露させたりします。最後に来年を良い子で過ごすように約束を交わし、年餅と呼ばれる大きな餅を与えます。この年餅は年霊(トシダマ)とも呼ばれ、トシドンにもらうことで無事に年を一つ取ることができると言われています。

この伝統行事は教育制度のない遠い時代に、文字の読み書きすらできなかった子どもたちを健全に育てるという理念のもとに行われています。

薩摩川内市教育委員会 社会教育課
TEL 0996-22-7251 FAX 0996-20-1331



重要無形民俗文化財 【昭和53(1978)年5月22日 指定】



秋田県男鹿市
開催日 毎年12月31日



大晦日の晩、秋田県男鹿半島全域で行われる行事です。集落の青年たちがナマハゲに扮して、「泣く子はいねがー、」などと大声で叫びながら地域の家々を巡ります。男鹿の人々にとってナマハゲは怠け心を戒め、無病息災・田畑の実り・山の幸・海の幸をもたらす来訪神です。

冬に囲炉裏に長くあたってしていると手足にできる火ダコを方言で「ナモミ」と言い、怠け心を戒めるため、ナモミを剥ぐナモミハギが語源と言われています。ナマハゲは地区ごとに面や衣装、持ち物などが異なることが大きな特徴です。面は、木の皮や彫刻、ザルに紙を張ったもの、紙粘土など様々な素材が使われています。

なまはげ館では男鹿市内の各地で実際に使われていた110体&40枚の面が勢ぞろい。圧巻の迫力です。隣接する男鹿真山伝承館では、伝統としきたりを厳粛に受け継ぐ真山地区の行事が体感できます。

男鹿市観光文化スポーツ部 文化スポーツ課
TEL 0185-24-9103 FAX 0185-24-9200
なまはげ館 0185-22-5050 (年中無休)



重要無形民俗文化財 【平成12(2000)年12月27日 指定】



宮城県登米市
開催日 毎年2月の初午



宮城県登米市東和町米川の五日町地区に古くから伝わる火伏せ行事で、毎年2月の初午に行われます。地区の男だけが水かぶりの姿になり行事に参加できます。

男達は、裸体の腰と肩に藁で作った「しめなわ」を巻き、「あたま」と「わっか」を頭から被り、足に草鞋を履き、顔に火の神様の印である竈の煤を塗ります。この水かぶり装束を身に着け、男達は神様の使いに化身します。

水かぶりの一団は大慈寺の秋葉山大権現と諏訪森大慈寺跡に祈願した後、奇声を上げながら町に繰り出し家々の前に用意された水を屋根にかけ、町中の火伏せをします。人々は男達が身に付けた「しめなわ」の藁を抜き取り、自家の火伏せのお守りにします。水かぶりの一団とは別に、鐘を鳴らす墨染僧衣のひょっとこ(火男)と天秤棒に手桶を担いだおかめが、家々を訪れご祝儀を頂きます。

登米市教育委員会教育部 文化財文化振興課
TEL 0220-34-2332 FAX 0220-34-2504



重要無形民俗文化財 【平成15(2003)年2月20日 指定】



佐賀県佐賀市
開催日 毎年2月第2土曜日



見島のカセドリは、佐賀県佐賀市蓮池町の見島に伝承される小正月行事(現在は2月第2土曜日に固定)で、神の使いであるカセドリに扮した未婚の青年2名が地区の家々を巡り、新年を祝福します。

雌雄のカセドリ役の2名は、蓑・笠を身にまとい、顔には白手拭いを巻き、手には先端部分を細かく割った長さ約1.8mの青竹を持ちます。

神事は、地区内にある熊野神社で始まります。カセドリは、勢いよく拝殿に走り込み、両膝を付き、体を前にかがめて、持っている青竹を床に激しく小刻みに打ち鳴らします。その後、頃合いを見計らって差し出された盃に注がれた酒を飲み干し、同じ所作を続けます。

神社での神事が終わると、行列を組んで地区内の家々を訪れ、カセドリは、青竹を打ち鳴らします。この竹の音で悪霊を祓い、家内安全や五穀豊穡を祈願します。また、各家々で振舞われる酒を飲む時のカセドリの顔を見ることができた年は幸運に恵まれるという言い伝えもあります。

佐賀市地域振興部 文化財課
TEL 0952-40-7369 FAX 0952-26-7378



重要無形民俗文化財 【昭和54(1979)年2月3日 指定】

の と 能登のアマメハギ

わ じ ま の と
石川県輪島市・能登町
開催日 毎年1月2日
(輪島市・能登町・五十洲・アマメハギ)
1月14日・20日(輪島市・輪島崎町・河井町・面様年頭)
2月3日(能登町・秋吉・アマメハギ)



能登のアマメハギは、石川県輪島市及び能登町に伝承される、正月もしくは節分に行われる行事です。晩になると、アマメハギと称する神が人里を訪れるとされ、家々を巡り歩き、新春を祝福するとともに地域の災厄を祓います。地域によってはメンサマと呼ぶところもあります。

囲炉裏などで長く暖をとっていると、手足に火ダコができますが、これを当地ではアマメといい、何もしない怠惰の表れと解しています。アマメハギは、そのアマメを剥ぎとることに由来するとされ、怠惰を戒めるという意からそう呼ぶようになったといわれます。

アマメハギには、各地区の青年や子供たちが扮しますが、天狗面や猿面など様々な面をつけ、手には包丁を持つなどして各家を訪れ、「アマメを作っている者はいないか…アマメー」などと大声で叫び、怠惰を戒めつつ家人に言い聞かせては去っていきます。

輪島市教育委員会 文化課
TEL 0768-22-7666 FAX 0768-22-7669
能登町教育委員会 真脇遺跡縄文館
TEL 0768-62-4800 FAX 0768-62-4172



輪島市輪島崎町・面様年頭



能登町秋吉・アマメハギ

重要無形民俗文化財 【平成16(2004)年2月6日 指定】

よ し は ま 吉浜のスネカ

お お ふ な と
岩手県大船渡市
開催日 毎年1月15日



小正月の晩、スネカは藁ミノを身にまとい、腰にアワビの殻を下げた姿で、岩手県大船渡市三陸町吉浜地区の家々を巡り歩きます。地域の人々は、子どもたちの健やかな成長を祝福し、豊漁・豊作をもたらす来訪神として、古くからスネカに親しんできました。スネカの独特の風貌や所作は、三陸海岸における来訪神行事を代表するものとして注目されています。

「スネカ」という呼び名は、脛の皮を剥ぐという意味の「スネカワタグリ」が転じたものです。冬の間、仕事をせず囲炉裏に長くあたっていると脛に赤い火だこができることから、スネカはこれを剥いで怠け者を懲らしめるといわれています。一年に一度だけ、忽然と現れては去っていくスネカは、豊かな恵みをもたらしつつも時折牙を剥く自然に対して、先人が抱えてきた素朴な畏敬の念を、生きる知恵として今に伝えています。

大船渡市教育委員会 教育総務課
TEL 0192-27-3111 FAX 0192-27-8878



重要無形民俗文化財 【平成5(1993)年12月13日 指定】

み や こ じ ま 宮古島のパーントゥ

み や こ じ ま
沖縄県宮古島市
開催日 旧暦9月上旬(島尻)・
旧暦12月最後の丑の日(野原)



パーントゥとは、お化け、鬼神を意味する言葉であり、海の彼方からやってくるものとされています。宮古島のパーントゥは、沖縄県宮古島市の島尻集落と野原集落に伝承されており、季節の節目に行われ、毎年旧暦の9月上旬(島尻集落)と、12月最後の丑の日(野原集落)に行われます。その日にはパーントゥと称する異形の神が巡り歩き、地域とその人々の災厄を払うとされています。

島尻のパーントゥは3人の若者が、体に蔓草(シノキカズラ)を巻きつけ、その上から泥を全身に塗り、頭上にはマータとよぶススキを結んだものを1本挿し、片手には杖、もう一方には仮面をもって顔を隠します。そして、家々を訪れ、集落内を巡り、出会った人々に泥を付けて歩き回り災厄を払います。なかでも新築の家や赤子のいる家では福をもたらすものと歓迎されています。

野原のパーントゥでは、女性達は頭や腰にクロツグとセンニンソウを巻き付け、両手にはヤブニッケイの小枝を持ちます。男の子の中の一人がパーントゥの面を着け、他の子は小太鼓やほら貝を鳴らしたてます。夕方の祈願の後に集落内の所定の道を練り歩きながら厄を払います。

宮古島市教育委員会生涯学習部 生涯学習振興課文化財係
TEL 0980-72-3764 FAX 0980-73-1976



重要無形民俗文化財 【平成29(2017)年3月3日 指定】

さ つ ま り い お う じ ま 薩摩硫黄島のメンドン

み し ま
鹿児島県三島村
開催日 毎年旧暦8月1日・2日



薩摩硫黄島のメendonは、「硫黄島八朔太鼓踊り」の行事日となる旧暦の8月1日、2日に現れる仮面神です。「硫黄島八朔太鼓踊り」は、唄を歌いながら鉦を叩く「カネタタドン」の周りを、かけ声を発しながら太鼓を叩く10名の男子が輪になって踊る勇ましい祭りで、メendonは、体を茅(カヤ)や藁を編んだ蓑で覆い、頭には、背負子を土台に竹ひごで骨組みしたものに紙を貼り黒と赤の模様を施したメンを被った出で立ちで地域内を徘徊し、島では神木として扱われスッペン木と呼ばれる木の枝で観客らを叩き魔を祓う「硫黄島八朔太鼓踊り」のシンボリック的存在です。

メendon(「硫黄島八朔太鼓踊り」)は、その特異性と鹿児島から日帰り出来ない交通事情も手伝って、最も見ることが難しい貴重なお祭りの一つとして知られています。

三島村教育委員会
TEL 099-222-3141 FAX 099-223-1832



重要無形民俗文化財 【平成11(1999)年12月21日 指定】

遊佐のこしょうがつきょうじ 小正月行事 (アマハゲ)

山形県遊佐町

開催日 毎年1月3日(女鹿)
1月1日(滝ノ浦)・1月6日(鳥崎)



「アマハゲ」とは、山形県遊佐町吹浦地区の女鹿・滝ノ浦・鳥崎集落に伝わる民俗行事です。「鳥追い」、「ホンデ焼き」とともに、正月に行う一連の行事が、「遊佐の小正月行事」とされています。この地域では、年初に当たってアマハゲと呼ばれる神々が訪れ、人々に祝福を与え、餅をやりとりするなどして、豊穣を約束します。

アマハゲは、集落の神社で祈禱を済ませ、「ケンダン」という藁を編んで何重にも重ねた蓑を身にまとい、各戸を回ります。家に入ると、家主と新年の祝いを交わしたのち、身を揺すりながら、子供や娘、若嫁や若婿などを威嚇します。その後、当家とアマハゲの間で餅の授受があります。

冬に囲炉裏にあたってばかりいると、手足に火斑ができることがあります。この火斑のことを方言で「ナミミ」、「アマミ」ということから、「アマハゲ」とは「火斑を剥ぐ」という意味であるとされています。遊佐の人々にとってアマハゲは、火斑を剥いで怠け心を戒め、勤労を勧めるとともに、厄災を払い、無病息災をもたらす来訪神です。



女鹿



滝ノ浦



鳥崎

遊佐町教育委員会 教育課文化係
TEL 0234-72-5892 FAX 0234-72-3313

重要無形民俗文化財 【平成29(2017)年3月3日 指定】

悪石島のボゼ

鹿児島県十島村

開催日 旧暦 7月16日



悪石島のボゼは、異様な容姿をもち、畏くも怖ろしいものとされており、盆の最終日となる旧暦7月16日の夕刻に現れ、人びとの邪気を追い祓う行事です。

この日、墓地に隣接するテラと呼ぶ空地にて、3名の若者が赤土と墨を塗りつけた仮面を被り、体にはビロウの葉を巻き付け、手足にはシュロ皮やツグの葉を当てがうなどしてボゼに扮します。手には、それぞれボゼマラと称する長い杖を持っています。

夕方、ボゼは呼び太鼓の音に導かれ、盆踊りで人びとが集まる広場に現れます。ボゼは、ボゼマラの先端に付けた赤い泥を擦り付けようと、観衆を追い回します。この泥を付けられると、悪魔祓いの利益があるといわれます。

こうして邪気が祓われ、清まった人々の安堵と笑顔が満ちるなか、最後に盆踊りがもうひと踊りされ、以後は夜が明けるまで歌って踊ります。



十島村教育委員会 教育総務課
TEL 099-227-9771 FAX 099-227-9773